

第4次戸田市生涯学習推進計画

(案)

— 概要版 —

戸 田 市

計画の概要

1 計画の背景・目的

21 世紀も 10 数年を経て、国としては人口減少社会を迎え、経済の低成長が続く中、**少子高齢化**、**IT 化**、**グローバル化**などの環境変化を踏まえた**成熟社会**への対応が求められています。本市においては、人口増加がなお継続し、子育て世代も比較的多い、活気のあるまちという特性があります。これらを踏まえ、成熟社会において重要となる生涯学習の在り方や幅広いニーズを常に振り返り、充実させていくこと、そうした取り組みを市民と行政が一体となって、ともに進めていくことが期待されます。

本市では、平成 9 年を初年度とする「戸田市生涯学習推進基本構想（とだエコプラン）」をはじめとして、平成 19 年には「戸田市生涯学習推進計画（第 2 次）」、そして、平成 24 年度からは「第 3 次戸田市生涯学習推進計画」と、市民のニーズの変化や本市の動向を敏速に反映させた推進計画を策定・実施することで、生涯学習施策の総合的な推進を図ってきました。この度、5 年間にわたる計画の期間が終了することを受け、新たに未来に向けた「第 4 次戸田市生涯学習推進計画」を策定するものです。

本計画は、多様な分野、対象に広がる生涯学習の総合的な充実に向けて、本市の生涯学習の現状と課題を整理し、今後の生涯学習の取り組みを総合的・体系的に示したものです。策定にあたっては、「戸田市第 4 次総合振興計画」及び「第 3 次戸田市教育振興計画」を上位計画とし、関連個別計画との整合や各部門との連携を図り、策定しました。

用語解説

【少子高齢化】出生率が低下する一方、平均寿命が伸びたことで、人口全体に占める高齢者の比率は高まり、子どもの比率は低下する社会の状態。

【IT 化】コンピューター・インターネット・携帯電話などを使う、情報技術（Information Technology）が様々な分野に拡大していくこと。

【グローバル化】世界的、地球的規模に広がっていく、変化していくこと。

【成熟社会】精神的豊かさや生活の質の向上を重視する社会。

■戸田市の「生涯学習推進計画」の流れ

平成 9～平成 18 年度「戸田市生涯学習推進基本構想（とだエコプラン）」[10 年間]



平成 19～平成 23 年度「戸田市生涯学習推進計画（第 2 次）」[5 年間]



平成 24～平成 28 年度「第 3 次戸田市生涯学習推進計画」[5 年間]



平成 29～平成 33 年度「第 4 次戸田市生涯学習推進計画」[5 年間]

2 関連計画との位置づけ

生涯学習に関する、国・県の計画の方向性や定義は、以下のように示されています。

【「生涯学習」の定義】

「生涯学習」は、昭和56年の中央教育審議会^①答申において、
〈人々が自己の充実・啓発や生活の向上のために、自発的意思に基づいて行うことを基本とし、必要に応じて自己に適した手段・方法を選んで、生涯を通じて行う学習〉と位置付けられ、
〈一般には人々が生涯に行うあらゆる学習、すなわち、学校教育、家庭教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味など様々な場や機会において行う学習〉を指すとされます。（文部科学省『文部科学白書』平成27年度版）
以上を踏まえると、行政が行う講座だけでなく、民間が行うものも含め、幅広い分野に渡って自らを高める学び、趣味、交流、活動等が生涯学習としてとらえられます。

①用語解説

【中央教育審議会】教育、生涯学習、スポーツ、文化の基本的な重要施策を審議する、文部科学省の審議会。

【国の動向】

文部科学省の第2期教育振興基本計画（平成25年）では、
〈「自立」、「協働^②」、「創造」の三つをキーワードとする生涯学習社会の実現に向けて、学校教育の充実のもとより、社会教育、家庭教育、その他様々な場や機会における学習の充実・環境整備〉に取り組む、とうたわれています。
また、近年の生涯学習に関する議論（第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理（平成25年））の中では、
〈個人の自立に向けた学習×ライフステージ^③に応じた学習機会の充実×学びの場を核にした地域コミュニティ^④の形成の推進×子ども・若者への学習支援×ICT^⑤を活用した学習の質の保証・向上、学習成果の評価・活用の推進〉といったキーフレーズ、方向性が提示されています。

②用語解説

【協働】相互に独立した個人・団体が、共通の目的達成のために、それぞれの力を発揮し、お互いを尊重して活動すること。

【ライフステージ】人間の一生におけるそれぞれの段階（幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期など）。

【コミュニティ】居住地域など共通点を持った集まり、共同体。

【ICT】Information and Communication Technology の略。コンピュータやインターネット等の情報通信に関する技術。

【県の動向】

埼玉県では、平成 27 年 3 月に建議「『学びの循環』の実現に向けて～社会教育活動を行う場や機会の活用～」(埼玉県社会教育委員会議)が示され、

〈「学び」を通じて自らを高め、「学び」の成果を社会に還元するなど、新たな社会的役割を創出すること×個々の「学び」が連鎖して、社会全体における持続的な教育力の向上に貢献すること〉を「学びの循環」と定義し、その具現化を目指しています。

具体的には、「埼玉県生涯学習推進指針」(平成 25 年 3 月)、「第 2 期埼玉県教育振興基本計画」(平成 26 年度～平成 30 年度)等に基づく取り組みが進められています。

【市の上位計画・関連計画】

本計画は、本市における生涯学習の総合的な計画として、前述の国、県の方向性を踏まえるとともに、本市の最上位計画「戸田市第 4 次総合振興計画」、「第 3 次戸田市教育振興計画」及び各分野の個別計画と整合を図り、策定するものです。

■戸田市第 4 次総合振興計画

平成 23 年度に戸田市第 4 次総合振興計画が策定され、平成 28 年度から開始した後期基本計画では、〈基本目標〉の 1 番目に「子どもの成長と生涯にわたる学びのまち」を位置づけ、以下の施策を掲げています。

〈基本目標 1〉「子どもの成長と生涯にわたる学びのまち」

分野④ 生涯学習

…「生涯学習推進体制の強化」「生涯学習活動の促進」「芸術文化活動の推進」
「図書館・郷土博物館サービスの充実」

■第 3 次戸田市教育振興計画

平成 28 年度から開始した第 3 次戸田市教育振興計画では、施策の方向のひとつに「生涯学習・生涯スポーツの推進」を位置づけ、以下の施策を掲げています。

〈施策の方向 11〉「生涯学習・生涯スポーツの推進」

施策 27 生涯学習活動の推進

- 市の多様な生涯学習関連施設を活用した学習の推進
- 生涯学習団体への支援

■市の関連個別計画

「戸田市スポーツ推進計画」

「戸田市子ども・子育て支援事業計画」

「第2次戸田市子どもの読書活動推進計画」

「第4次戸田市男女共同参画計画」

「第2次戸田市健康増進計画」「戸田市食育推進計画」

「第3期戸田市地域福祉計画」

「第6期戸田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」

「戸田市障がい者計画」「戸田市環境基本計画」

「地域コミュニティ推進計画」 等

3 計画の期間

本計画の期間は、平成 29 年度からの 5 年間です。

なお、計画期間中、状況の変化によって見直しの必要性が生じた場合は、適宜計画の見直しを行うこととします。

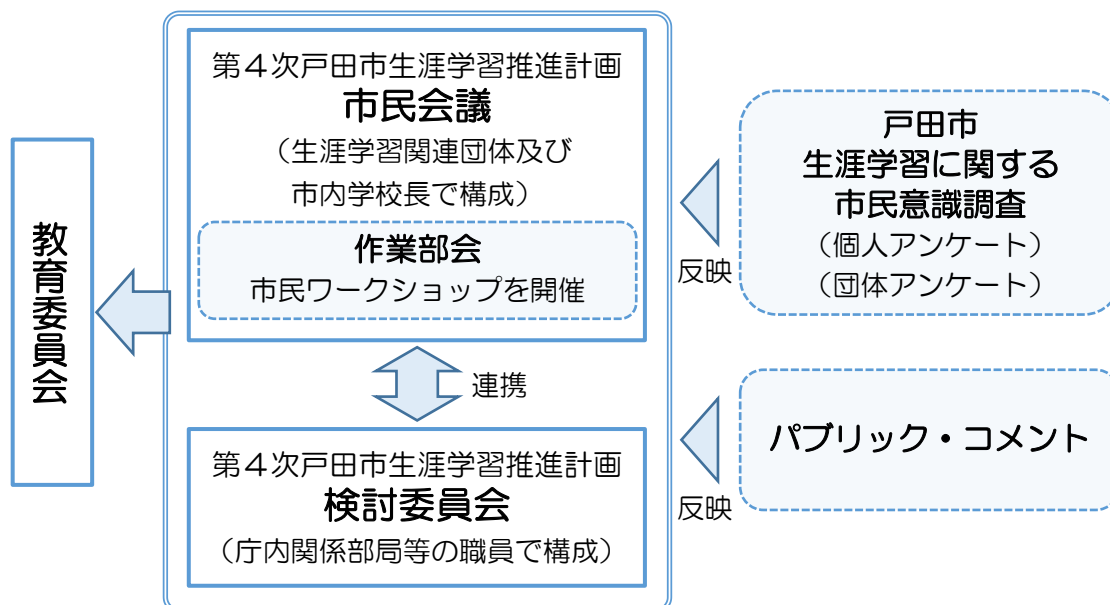
■計画の期間

年度	平成 29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
第 4 次戸田市生涯学習推進計画	□ 策定	■	■	■	■					
次期計画（予定）					□ 見直し	■	■	■	■	■

4 計画策定の体制

本計画については、生涯学習関係団体の市民などで構成する「第 4 次戸田市生涯学習推進計画市民会議」と、庁内関係部局等の職員で構成する「第 4 次戸田市生涯学習推進計画検討委員会」において協議を進め、策定しています。

また、市民、地域の活動団体の声を広く計画づくりに反映させるために、平成 27 年度に「戸田市生涯学習に関する市民意識調査」を実施したほか、「市民会議」の作業部会（自由申込型の市民参加ワークショップ☞）の開催、パブリック・コメント☞を実施（いずれも平成 28 年度）しました。



☞用語解説

【ワークショップ】研修・講習等の場で、参加者が専門家の助言を得ながら自主的に行う討議などの活動。

【パブリック・コメント】 公的機関が、市民の生活に大きな影響を及ぼす施策等を定めるに当たり、市民や関係者等の意見を事前に聴取し、その効果を反映させるための手続。

生涯学習推進の基本方針

1 基本理念

「第3次戸田市生涯学習推進計画」に基づく施策の成果、課題などを踏まえ、本計画の基本理念を以下のように掲げます。

つながり 磨き 高め合うまち とだ

— 豊かな学びの創造を目指して —

- これまでの成果を活かしながら、課題を見据えて、戸田市における生涯学習の位置づけ・意義づけを柔軟かつ的確にとらえ直し（＝磨く・高め合う）、一歩ずつ豊かな学びの在り方を目指します。
- 地域活動をはじめとする戸田市民のコミュニティへの関わりと戸田で学ぶことの関連（＝磨く・高め合う）を念頭に、地域でのつながりを重視した、豊かな学びの在り方を目指します。
- 生涯学習の主役である戸田市民自らが、みんなで学びを共有したり、主体的にそれぞれの目標や課題に向けての発見、研鑽ができる（＝磨く・高め合う）豊かな学びの在り方を目指します。

課題

- 生涯学習事業の認知・周知度
- 生涯学習参加者の固定化
- 施設等の活用の停滞（公民館等）

背景

- 人口減少社会の到来
- 成熟社会における生涯学習の位置づけの変化
- 行政・民間等の役割見直し

成果

- 施設等の再編・促進
- 戸田市民大学等「市民向け事業」の継続、展開（市民企画講座など）
- 多様な生涯学習ニーズの高さ

特性

- 子育て・現役世代の多い人口構造
- 市民の流動性の高さ（住民増加）
- 都市的環境と独自の地域資源

2 施策の体系

基本理念、基本目標をもとに、具体的な施策の柱となる【基本施策】を設けて、総合的に展開していきます。

【基本理念】

つながり 磨き 高め合うまち とだ

— 豊かな学びの創造を目指して —

【基本目標(目指すテーマ)】

- ①戸田での学びの内容や形を多様に豊かにする
- ②戸田で学びたいと願う様々な人を増やす
- ③気軽に集える学びの機会や場・空間を戸田で増やす
- ④戸田での学びについて広く知らせ伝える

【基本施策】

3分野の基本施策を実施し、4つの基本目標を複合的に実現、基本理念の達成を目指します。

I 多様なニーズに応じて提供する主体的な戸田の学び(*)の充実

(*)ここでの戸田の学びとは、主体的で協働型・対話型の学びであり、アクティブ・ラーニングを生涯学習全般に取り入れます。

- 1 ライフステージに沿った学びの提供
- 2 多様なニーズに応じた学びの提供
- 3 市民の学ぶ力を高めるサポート事業の提供
- 4 学びを豊かにするイベントの充実

主に学びの内容・企画に関する施策

II 戸田の学びを多彩に展開する環境の充実

- 1 関連施設の整備及び活用
- 2 多彩な学びの場の確保・創出
- 3 各種サポート制度の整備
- 4 各種相談体制の充実

主に学びの展開・拡大を図る受け皿に関する施策

III 戸田の学びの広報及び支援体制の充実

- 1 広報・情報提供体制の充実
- 2 市民・民間との連携体制の強化
- 3 庁内連携体制の強化
- 4 学びの事業の評価・改善の推進

主に広報及び学びに関わる関係者の連携体制に関する施策

②用語解説

【コミュニティ】居住地域など共通点を持った集まり、共同体。

【成熟社会】精神的豊かさや生活の質の向上を重視する社会。

【ソフト】講座や行事など。

【コミュニティ】居住地域など共通点を持った集まり、共同体。

【情報コンテンツ】コンテンツは中身の意で、発信する情報を価値あるものとして市民に提供すること。

【協働】相互に独立した個人・団体が、共通の目的達成のために、それぞれの力を発揮し、お互いを尊重して活動すること。

【アクティブ・ラーニング】一方向的な講義形式ではなく、学ぶ側の主体的・能動的な参加を取り入れた学習方法。

【ライフステージ】人間の一生におけるそれぞれの段階（幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期など）。

3 計画の全体体系図

